

2006年度日本政府(文部科学省)奨学金留学生選考試験

学科試験 問題

(日本語・日本文化研修留学生用)

日 本 語

注意 ☆ 試験時間は120分。

☆ 答えは全て解答用紙に記入すること。

I _____に入るもっとも適当なものをA～Dの中から一つ選んで、その記号を解答用紙に書きなさい。

問1 [れい] 日本には来年の3月_____いるつもりです。

A に B まで C でも D で

1 決められた場所以外_____たばこを吸うことはできません。

A に B を C が D で

2 田中さんは、私_____辞書_____くれました。

A にーを B はーを C のーが D にーが

3 このタクシーは_____^{しんせつ}親切ではありません。

A あまり B 多少 C なかなか D どれほど

4 大地震の^{どしん}記憶も^{きおく}時間がたつに_____、少しずつ消えていく。

A よって B つれて C ふれて D むかって

5 道に迷って_____いたら、親切な人が助けてくれました。

A 困られて B 困らせて C 困って D 困らせられて

6 周囲の目を_____ばかりいては、新しいことはできない。

A 気になって B 気にして
C 気がついて D 気がきいて

7 彼は長い間、日本に留学していたのだから、もっと日本語がよくできてもいい_____だ。

A まで B ばかり C だけ D くらい

8 お忙しいところ_____おじゃましてすみません。

- A が B で C を D から

9 時間_____あれば、何でもできると思っている人がいるが、実際には難しい。

- A しか B さえ C まで D すら

10 たいへん疲れていたのに、家に着く_____、ベッドに倒れ込んでしまった。

- A べく B なり C まで D から

問2 [れい] 飛行機に乗り遅れたら_____です。急ぎましょう。

- A ほんとう B とても C たいへん D すごく

1 この薬を飲んで、元気が_____。

- A 出ました B 入りました C なりました D 起こりました

2 彼の証言のおかげで疑いが_____。

- A はれました B ばれました C とれました D とまりました

3 ビンのふたを_____閉めないで、水がこぼれてしまいます。

- A すっきり B やっぱり C はっきり D しっかり

4 お酒も_____な量なら、健康によい。

- A 軽度 B 適度 C 過度 D 程度

5 留学生にとって、奨学金が減って_____が増えることは大きな問題だ。

- A 計算 B 暗算 C 負担 D 負荷

6 絵を買うときには、_____が利^きく人と一緒に行かないと、失敗することがある。

- A 手 B 足 C 背 D 目

7 探していた本を古本屋さんで見つけた。_____に少し傷^{きず}があるが、買うことにした。

- A 手 B 足 C 背 D 目

8 高速インターネットを使えば、大きなファイルも_____ダウンロードできる。

- A すくすく B すたすた C すいすい D すりすり

9 世界中で、日本の_____が見られ、ハリウッドも注目するようになった。

- A アニメ B マニア C アルカリ D アニマル

10 都市部では、_____で通話ができないところは、ほとんどなくなった。

- A カラオケ B ケータイ C カーナビ D ナツメロ

問3 [れい] 吉田：これは、みんなでした方がいいと思います。

山口：_____。やはりあなたがひとりですべきです。

- A そうでしょうか B そうしましょうか
C そのはずです D その通りです

1 田中：もしもし田中と_____が、山田社長はご在宅でしょうか。

山田：私が山田ですが。

- A いらっしゃいます B 呼びます
C 話します D 申します

2 加藤：これ、うちでは使わなくなったので、よかったらさしあげますよ。

上田：え、_____ いいんですか。ありがとうございます。

- A くださっても B いただいても
C あげても D さしあげても

3 先生：山田君に会うのは、何年ぶりかな。

山田：ちょうど10年ぶりに_____。

- A 拝見します B お目にかかります
C 会います D お会いになります

4 司会：それでは、吉田先生から一言ひとことご挨拶あいさつを賜たまわります。

吉田：ただいま、紹介しょうかいに_____ 吉田でございます。

- A くださいました B いただきました
C あずかりました D かかりました

5 患者：まだ少し熱があるようで、食欲がないんです。

医者：_____ とにかく何か食べないと、治りませんよ。

- A それから B それでも C それなら D それなのに

6 先生：田中君、君はいつもアルバイトばかりしているようだけど、勉強の方はだいじょうぶなのか。

田中：はあ、_____ アルバイトを少し減らします。

- A それなのに B それでも C すると D それじゃ

7 医者：たいへんな手術になるとと思いますが、私も最善さいぜんをつくしますから、安心してください。

患者：_____ よろしく願いいたします。

- A どうも B どうか C 何にも D 何とも

8 山田：課長、会議の司会、誰がいいでしょう。

田中課長：君が_____ いいんじゃないか。

- A やらせてみたら B やられてみたら
C やってみたら D やってもらったら

9 先生：この点について、君の論文は論証が不十分だと思うよ。

学生：はあ_____。考え直してみます。

- A そうなります B そうですよ
C そうですか D そうしましょう

10 佐藤：今度のプロジェクトの状況はどうなっている？

中村：はい、ようやく_____が立ったところで、今少し時間が必要です。

- A めど B 目的 C 方向 D むき

Ⅱ—1 次の文を読んで、あとの問1～問9に答えなさい。答えはA～Dの中から
もっとも適当なものを一つ選んで、その記号を解答用紙に書きなさい。

私たちは、本にかこまれて暮している。しかし、本当に必要なのは、たくさんの本
を次つぎと読み、それを本棚に並べておくことだろうか。

本を読むのはいい。読むのはいいが、その本を、わざわざ保存しておく必要はない。
最近、私はそう思うようになった。一冊の本を読んで、いやでも頭の中に残る一行が
あれば、それで充分なのだ。忘れてしまうような内容は、もともと縁がなかったのだ
と諦める。(中略)

本当に大事なことは、どんなに忘れようと頑張っても頭にこびりつく。おんぶお化
け(注1)のようにこちらにしがみついて離れないものなのだ。そういうものにこそ価値
がある、というふうに私は思う。

もっとも、山のような蔵書に埋もれて暮すのも、三冊の本だけを枕もとに置いて生
きる(注2)のも、それはその人の勝手である。どちらがいいというわけではない。だが

一度、この本を残すか、捨てるか、と、迷ってみることは決して悪いことではなさうだ。(中略)

本そのものが好きなら、読まなくてもいい。それを枕もとに置いて、その質感や装幀⁽⁴⁾や、何とも言えぬ本の香りを楽しむというのも、悪くない趣味ではある。それにしても私たちは、あまりにも多くの本に囲まれすぎて生きてはいないか。本を読む前に捨てる、本を捨てる前に選ぶ。それは知的な胸躍る冒険である。三冊の本を選んでみることを、ひとつの遊びとして、休日の午後、ひとりでのしんでみるのはどうだろう。

金のかからない楽しみとえば、これほど金のかからない遊びはない。仮に、おれは蔵書なんかないよ、という人でも、探せば十冊や二十冊の本はでてくるだろう。その中から三冊の本を選ぶというのは、実にスリルに満ちた、けっこう困難な遊びではある。⁽⁶⁾

そんなことを言いながら、私自身は相変わらず、学生時代に高田馬場^(注3)の古本屋で買った本さえ捨てられずに悶々と暮しているのだから情けない。

いつか、みんな捨ててやるぞ、きっと三冊の本だけ残してやるぞ、と、自分の心に言い聞かせながら、たぶんそれは最後までできずにこの世を去ることになるのだろう。しかし、それでもあきらめずに、今日はやるぞ、と、心に決めて、三冊の本を選ぶ作業にとりかかってみることがある。⁽⁷⁾ 一度として三十冊までしぼりこめたこと ⁽⁸⁾すらない。

本を捨てるなどということは、本当は、決死の覚悟がなくてはできないことだ。しかし、その決死の覚悟をふるいおこしつつ一冊の本を手にとるとき、私たちは、本 ⁽⁹⁾ というものの重さ、その大事さを、あらためて見いだすことになるのではあるまいか。

(五木寛之『知の休日』より 一部中略した)

注1 おんぶお化け：一度背負うと離れなくなるという、日本の化け物、妖怪

注2 この文章の直前の部分で、筆者は、手元に大切な三冊の本しか置かなかったロシアの詩人の話を紹介している。

注3 高田馬場：東京にある地名

問1 下線部 (1) は、ここではどういう意味ですか。

- A おぼえておくこと
- B 本棚に並べておくこと
- C よごさないようにすること
- D 何かに入れて大切にすること

問2 下線部 (2) は、ここではどのようなことをたとえた表現ですか。

- A 忘れようとしても忘れられない
- B 見ようとしても見えない
- C 覚えようとしても覚えられない
- D 別れようとしても別れられない

問3 下線部 (3) は、どういう意味ですか。

- A たいへん厚い
- B たいへんりっぱな
- C たいへん多い
- D たいへんねだんが高い

問4 下線部 (4) は、どういう意味ですか。

- A おもしろくて内容が忘れられない本は、くり返し読む必要がないということ
- B 好きな本は、読まずに置いておくだけにした方がよいということ
- C たとえ本が好きでも、買う必要はないということ
- D 内容に関係なく本自体が好きなら、近くに置いておくだけでもいいということ

問5 下線部 (5) とは、何のことを言ったものですか。

- A 本を捨てること
- B 大事な本を三冊選ぶこと
- C 休日の午後をひとりでたのしむこと
- D 家の中にある本を探すこと

問6 下線部 (6) とありますが、それはなぜですか。

- A 大事な本はそんなに多くないので、三冊も選ぶことは難しいから
- B 探せば本がたくさん出てきて、選ぶのがたいへんだから
- C どの本もなかなか捨てる気持ちにならず、三冊だけ残すのは難しいから
- D 金をかけずにたのしまなければならないから

問7 下線部 (7) は、どのように言い換えることができますか。

- A たとえ死ぬまで三冊の本を選ぶことができなくても
- B たとえ死ぬまで三冊の本を選ぶ気持ちにならなくても
- C たとえ本をみんな捨ててしまうことになっても
- D たとえ三冊の本だけを残してこの世を去ることになっても

問8 下線部 (8) には、どの言葉が入りますか。

- A かなり
- B もう
- C まだ
- D もっと

問9 下線部 (9) は、どういう意味ですか。

- A あらためて本というものの困った点がわかるということ
- B あらためてどの本に価値があるのかわかるということ
- C あらためて大事な本がどこにあるのかわかるということ
- D あらためて本というものの重要さがわかるということ

Ⅱ—2 次の文を読んで、あとの問1～問8に答えなさい。答えはA～Dの中から
もっとも適当なものを一つ選んで、その記号を解答用紙に書きなさい。

音をめぐる記憶を求めて、幼児のころまでさかのぼってゆくと、病気でねていた時
きいた経験がいちばん強くのこっているのに気がつく。これは私個人の事情だろうか、
それとも一般性のある事実なのだろうか？

ねている時は、外界に対しいつもより敏感になっていながら、自由に身体を動かし
てあたりを見る力をうばわれているので、受身の状態にいても感じられる器官の働き
——つまり聴覚が鋭敏になるわけだろうか。

いずれにしろ、私は病気でねていた。

熱が高くて、眠っているような、うつつのような状態の中に埋まっていた。いちど
雀すずめの声で目がさめた。朝か、と思った。私はいつだって朝目がさめるとおなかがすい
ているのに、今はちっともそれが感じられない。口の中に何か紙のような、高野こうやどう
ふ(注1)のような、弾力があって柔らかいものがつまっている。何かしらと思っている
うち、また、眠ってしまう。眠りながら、どうして母がいないのだろうと思う。

それから、どのくらい眠ったか。何度か人の顔がかぶさってきたような気がする。
(1)
だが、今、目がさめてみると、誰もいない。声を出そうとしたが、声にならない。

そのとき、私は母の声をきいた。おまけにそれは笑い声である。私は、母の明るく
高い笑い声が猛烈もうれつに好きだった。しかし今、私は、母が自分のそばにいないのさえ許
しがたく思っているのに、どこか私の知らないところで、誰かを相手に笑い声を立て
ているとはなんだろう！と思った。目に涙がにじんできた。
(2)

また、どのくらい眠ったか。母のおしころしたように低い声で目がさめた。今度は
そばにいて、誰かと話している。私は、そのまま、じっとしている。その声が身体の
奥までしみ通ってくるのを感じながら。

そのときまた、母の笑い声が、どこかでした。私はびっくりして目をあける。母は
前と同じ声で誰かと話している。

では、あれは、さっきの笑い声はなんだったのだろう？

あとで、母そっくりの笑い声は、遠くからきた親戚の女性のそれとわかった。その
人は私に親切にしてくれたが、私はいつまでたっても彼女が好きになれなかった。
(3)

母の声が二つあって、よいのだろうか？

(4)
私の父は朝風呂が大好きだった。それも銭湯(注2)にいったら朝風呂が。こういっても今の人にぴんとくるかしら？ 私の小さかったころは、東京下町(したまち)の銭湯(せんとう)は、ずいぶん早くから湯をわかしていたものだ。

早起きの父は、その風呂やで一浴びしてきてから、朝のごはんをたべるのだった。そんなとき父はよく幼い私をつれてゆくのだが、これが子供の私には少々閉口(へいこう)だった。第一、私は朝起きたら、風呂よりまずごはんがたべたかった。それに、朝風呂に集まる人たちは、どういうものか、やたらと熱い湯に入るのが得意で、それでまた困ってしまう。熱すぎたら水をうめればよいわけだが、それが朝風呂ではとても度胸(どきょう)のいる仕事なのだ。もうもう湯気のたった無性に熱い湯舟の中で、頭に手拭(てぬぐい)か何かのせ、そこから湯にまけないくらい湯気をたてたおやじがいて、うっかり水を出すと、「なんだ、坊主(ぼうず)。これくらいの湯に入れれないのならあとで来な」と、どやしつけられかねない。

あれは一体どういう了見(りょうけん)だったか。熱い湯を楽しむといってもおよそ程度というものがある。今思えば、要するに、江戸っ子(注3)の見栄(みえ)っぱり、やせ我慢(がまん)というものだったのだろう。昔の人はなんだって、あんなに医学の常識を無視するのが好きだったのだろうか。

そのうえ、ただでさえもうもうたる湯気のたてこめた風呂場では、鼻歌を歌うか、浪花節(なにわぶし)をうなるか、小唄(こうた)か新内(しんない)(注4)のど自慢(どじまん)か、しょっちゅう「歌」を歌う人がいたものである。風呂場での歌声には、何かいつもとちがうものがあった。特にそれが、自分から遠くないところで熱湯の中に浮かんでいる丸くて赤褐色(せきかつしよく)の人間の頭から出てくるのをみるのが、私には、どうにもなじめなく、不気味(ぶきみ)だった。

風呂に入ると歌が歌いたくなるというくせの持ち主はたくさんいる。いま、これを読んでいらっしゃるあなたもそうかもしれない。それは何も、半世紀も昔の東京下町(したまち)の朝風呂に限らない。超現代的なお洒落(しゃれ)なマンションやホテルの浴室でシャワーを浴びているときも、自分でも知らないうちに、鼻歌を歌っているという風景はけっしてめずらしくない。それに風呂場で歌うと、少なくとも当人には、自分の声がおやっと思うほど深く豊かにきこえてきたりするものである。

人間はどうして風呂に入ると、大声で歌いたくなるのだろうか？ 風呂場だと、「お

(7)

れはこんなにうまかったのか」という気がするからだろうか？

それが、この塚原さん^{つかはら} (注5)の本^{ほん} (注6)をみているうちに何かわかったような気がしてきた。少なくともわかるきっかけがつかめたような気がしてきた。

塚原さんは、同じ白い部屋の中といっても、子供たちを服をきたまま入れたときと、あとで二人の衣服をとってまっ裸^{ばだか}にしてやったときとでは、二人のすることはまるでちがってしまったと、話してくれた。

生まれたときのままの状態、ほかに見るものも、手に持つことのできるものも何もない白い部屋に放置された二人は、はじめは非常な不安にとらえられたが、その後、いつの間にか、自分の身体の中で手でいじれる部分にふれたり、相手に誇示したりしだしたというのである。

風呂場で歌うのも、これと同じ根につながった行為ではないだろうか。衣服とともに自分をおさえている意識をぬぎすてた解放感からというよりも、もっと直接精神の深層にかかわるところから上層にのぼってきた何かがとった姿が、風呂場の歌なのではないかしら。

それに、声が、人間のもう一つの裸身だというのは、誰しも知っていることだ。

よしだひでかず
(吉田秀和「二つの声」)

注

- 1 高野^{こうや}どうふ：凍^{こお}らせてから、乾燥^{かんそう}させたとうふ
- 2 銭湯^{せんとう}：公衆^{こうしゅう}浴場^{よくじょう}
- 3 江戸^{えど}っ子^こ：特に東京／江戸の下町^{したまち}で生まれそだった者
- 4 浪花^{なにわ}節^{ぶし}・小唄^{こなた}・新内^{しんない}：一般^{しよみん}庶民^{しよみん}に好^{でんとう}まれた^{てき}伝統^{でんとう}的^{てき}な歌^{うた}や語^{かた}りのある芸能
- 5 塚原^{つかはら}琢哉^{たくや}：(1937～) 写真家、美術評論家
- 6 本：『塚原^{つかはら}琢哉^{たくや}による触覚^{しよっかく}的^{てき}空間^{くわん}「白い遊び」』

問1 下線部(1)の人は、どんな人と考えられるか。

- A 親戚の女性
- B 母親
- C だれだかわからない人
- D 人かどうかよくわからないもの

問2 下線部(2)の理由は何か。

- A 病気のとき、そばにだれもいないし、声を出そうとしたが、声にならないため
- B 病気のとき、熱が高くて、口の中に何かつまっていると感じたため
- C 病気のとき、そばにいないけれど、母の明るく高い笑い声が猛烈に好きだと感じたため
- D 病気のとき、母がどこか知らないところで、誰かを相手に笑い声をたてているのがきこえたため

問3 下線部(3)の理由を筆者はどのように考えているか。

- A 自分が病気のとき来て、笑ったりしていたので
- B 彼女は自分に親切にしてくれたが、よく知らない遠い親戚の女性であったため
- C 病気の自分にではなく、誰かと話していた態度で、本当に親切とは思えないので
- D 彼女の笑い声が自分の大好きな母の笑い声とそっくりだったため

問4 下線部(4)は、どんな気持ちを表現しているか。

- A 親戚同士といっても、親戚の女性と母の声がまちがえてしまうほど似ているのはおもしろい、こんなことが世の中にあるのだろうか
- B 母が自分の大好きな明るく高い笑い声と、おしころしたような低い声の二つの声を使い分けているのは、受け入れられない
- C 母親そのものを意味する母の声と同じ声がほかにもあるなどということを受け入れられない
- D 世の中に二人ぐらいいは、そっくりな声をしている人がいるものなのだろうか

問5 下線部(5)はどんなことを意味しているか。

- A 東京の下町では、朝ごはん前に朝風呂に集まること
- B 熱すぎる湯を水でうめるという度胸のある仕事をする事
- C 医学の常識を無視すること
- D 本当は熱くてたまらない湯に得意そうに入っていること

問6 下線部(6)は、何をさしているか。

- A うっかり水を出した時、どやしつける声
- B 湯舟の中でいろいろな歌を歌う声
- C 手拭をのせている頭から出ている湯気
- D 朝ごはん前に銭湯に行く時の父のよぶ声

問7 下線部(7)の質問に対する答を筆者はどのように考えているか。

- A 直接精神の深層にかかるところから、上層にのぼってくる何かが歌となるためと考えている
- B 風呂場では、衣服とともに自分を抑えている意識をぬぎすてた解放感が感じられるためと考えている
- C 風呂場で歌うくせを持っている人が多いためと考えている
- D 風呂場では、少なくとも当人には、自分の声がおやっと思うほど深く豊かにきこえてきたりするためと考えている

問8 本文を通して、筆者がもっとも主張したかったことは何か。

- A 人間は、病気でねているときは、外界に対しいつもより敏感になっていながら、自由に身体を動かしてあたりを見る力をうばわれているので、特に聴覚が鋭敏になる
- B 病気でねているとききこえてくる笑い声と、銭湯できこえてくる歌声は、二つとも子供のときは特に好きになれなかった声である
- C 声は、個人の精神の深層にかかわるものであり、人間そのものが直接あらわれるものである
- D 子供たちを白い部屋に服をきたまま入れたときと、裸で入れたときでは、子供の態度がちがってくることを塚原さんの本を読んで考えさせられた

Ⅲ 下線部 (1) ～ (10) の漢字の読み方をひらがなで、下線部①～⑥のカタカナの部分に漢字で、それぞれ解答用紙に書きなさい。

- 1 地域のレキシを学ぶ 催しが人気を集めている。
① (1) (2)
- 2 伝統芸能では、厳しい修行に耐えた弟子が出世する。
(3) (4)
- 3 田舎の生活は、確かに不便だが、都会にはないものを発見する可能性をヒめて
(5) いる。②
- 4 明石海峡に架かる ハシは、フトいケーブルで吊られている。
(6) (3) (4)
- 5 メールをオクることをメールを打つと表現する人がいる。
⑤ (7)
- 6 経済的な成功が、そのまま人生の成功と等しいわけではない。
(8)
- 7 桜がサく頃は、日本でもっとも美しい季節である。
(9) ⑥ (10)

Ⅳ 次の文章は、物理学者朝永振一郎ともながしんいちろうが教育関係者の前で行った講演の一部です。これを読んで、あとの問1～問10に答えなさい。答えは、A～Dの中からもっとも適当なものを一つ選んで、その記号を解答用紙に書きなさい。

「好奇心」という言葉の意味ですが、これにはいろいろなものがあります。辞書を引くと、「奇を好む心」とあり、これは読んで字のごとくですが、「奇を好む」というのはあまりいい意味ではなさそうで、つまり「奇妙なことを好む」というのですから。また、「せんさくず詮索好き」というか、「物ごとを詮索するのが好きだ」という意味もあるようです。つまり、物ごとをただ普通に見たのでは満足できなくて、いろいろと詮索するというのです。しかし詮索の対象が何であるかということで、いいことにも悪いこと

にもなる。他人のプライバシーを侵すような詮索^{おか}はやってはいけません。

しかし、私は自然科学を商売にしていますが、考えてみますと、この科学の基本には、やはり物ごとを詮索したいという気持ちがあります。「好奇心」について、英語の辞書を引いてみましたら、もう少しいい意味がみつかりました。つまり、「精密あるいは精緻^{せいしゅう}を好む」という意味もあるらしいのです。これは「いい加減なことではなかなか満足しない」ということです。(中略)

好奇心は、人間の精神、物の考え方の構造として、生まれながらにあるわけですが、これをどうすれば満足させることができるか、あるいはどうすれば刺激することができるか、そういうことが、子供の教育に限らず、私は大学の教師をしていましたので、大学生の教育をする場合にもやはり大事なことでないかと思うのです。(中略)

この好奇心をどういうふうに刺激するかという問題、刺激するというより、持って生まれた好奇心を鈍らせないのにはどうしたらよいか、といった方がいいと思いますが、そういうことが教育の中心的な問題になると思うのです。これも、私よりも、教育者であるみなさんの方が、はるかに痛切に感じて、考えておられると思いますが、このとき好奇心という言葉の意味をまちがえると、とんでもないことになります。

(1)

この言葉は、ドイツ語では「知識に飢えている」という意味です。つまり、ある程度飢えた状態にしておかないと、食欲と同じで、知識欲、あるいは知的な好奇心が出てこないということを表わしているのです。日本語の好奇心は、そういう意味がはっきり出ていません。

そういう意味で、好奇心を減少させないためには、ある程度間食をさせないことが必要になります。⁽²⁾間食で菓子のような、つまらないものをいつも食べさせていると、本当に栄養のあるものが食べたくなくなる、ということがいえると思います。そういう意味で、学校教育の場であまり無理強^{むりじ}いすることは、大事な知的好奇心を減退させる原因になるのではないかと、私は思うのです。⁽³⁾

いまの世の中は、情報化時代というのだそうですけれど、非常に情報量が多い。われわれは、とにかくこの情報の波に巻き込まれてしまう。実際、私の専門の物理学においても、研究の発表が昔と比較すると非常に多くなっています。そういう意味で、私などはときどき知的好奇心を満たす前にうんざりしてしまう⁽⁴⁾。つまり、知的な渴き^{かわ}というものが、本当に味わえないような世の中になっているような感じがします。(中

略) 現在、科学の比重の増大につれ、科学に関する情報の量もおびただしいものになってきた。しかも、その膨大な情報^{ほうだい}が、ことごとく価値あるものとは必ずしもいえないので、あまり価値のないものもたくさんあるわけです。ですから、ここで情報の選択が必要になってくる。つまらない論文と、つまらなくない論文、つまり意味のあるものと、意味のないものをよく見きわめなくてはいけない。そうしませんと、くだらない間食をして、食欲がなくなってしまうと、肝心の栄養のあるものが食べられなくなってしまうことになる。⁽⁵⁾ こういうわけで、情報の洪水の中で、やはり、その中から栄養になるものと、そうでないもの、ただお腹を張らすだけのものと、よく見きわめる必要が、われわれの中でも起こっているわけです。これは、たいへんむずかしいことですが、これをやらなければ、本当の意味の知的好奇心というものは、出てこない。つまり食欲がない状態になってしまうわけです。

教育の方面では、現在詰め込み教育に対する批判がいろいろと出ています。しかし、いまのこの複雑な社会では、ある意味で、昔よりもたくさんの知識が要求されることも事実でしょう。しかしつまらない知識の間食で知的な飢えをなくさないためには、知識を整理しなければならない。そういうむずかしい問題⁽⁶⁾に、みなさんは直面しておられると思うのです。私が大学生と一緒にくらしてみても、ひとつ感じることは、非常に情報過多の世界の中で、彼らは情報を得るのにたいへん熱心だということです。そこまではいいのですが、それでももうお腹が一杯になってしまって、本当に自分の知的な要求がどこにあるのか、わからなくなってしまう傾向がある。こういう事態のもとで教師の役目⁽⁷⁾は、情報を与えることよりもむしろはんらんする情報の中から本質的なものを選び、その他のものは相手にしない、そういう能力を学生に与えることではないでしょうか。つまり学生たちに知的な好奇心を大事にして、つまらない間食などしないような知恵を与えることではないでしょうか。

この「知的な好奇心を大事にしない」というときに、好奇心と似た言葉ですが、似て非なる言葉⁽⁸⁾があること、その区別をはっきりさせる必要があります。それは、いわゆる「野次馬^{やしうま}」というもので、大きな好奇心の持ち主だと思っただけですが、はなはだ付和雷同性がある。大勢の人がやるから俺^{おれ}もやろうという、そういう軽薄性がある。そこには、私のいう好奇心の中にあつた「徹底的に精密かつ精緻に追求する」という気持がないわけです。そういう、他人がやるから、自分もやるという野次馬的な態度が

好奇心と混同されている。どうも現在の人びとの中にそういう混乱があるような印象を受けるわけです。この好奇心と似て非なる傾向は、いまの情報過多に拍車をかけることになります。先ほど、学術論文が非常にたくさんになったといいましたが、これは必ずしも、研究そのものが多様化した結果ではなくて、いろいろな人が、人もやるからじっとしてられないということで、みんな同じことを同じようにやっている結果なのです。そしてそれが、多すぎる情報のもとになり、健康な知的好奇心の邪魔になるということがあるのです。

(朝永振一郎「好奇心について」<1972年>より、一部書き改めた。)

問1 下線部(1)について、筆者のいう「好奇心」の意味を正しくとらえたものはどれですか。

- A 人と違うものを好む。
- B 知識欲を持つ。
- C いい加減に考える。
- D 他人の詮索をする。

問2 下線部(2)で、筆者が実際に言いたいことは次のどれですか。

- A 学生が混乱しないように、不必要な知識を教えないようにする。
- B 重要なこと以外は、できるだけ頭を使わせないように注意する。
- C 飢えの気持を忘れないように、少しお腹のすいた状態にしておく。
- D 本来の欲求を見失わせないために、過剰な情報を与えないようにする。

問3 下線部(3)で、筆者は教師に対するどのような希望を述べていますか。

- A 教師は、学生がもう勉強するのはいやだと思わないようにしてほしい。
- B 教師は、学生が自分で知りたいことを探す力を持てるようにしてほしい。
- C 教師は、学生にとって必要な知識だけを要領よく教えてほしい。
- D 教師は、学生に多くの課題を与えて体を疲れさせないようにしてほしい。

問4 下線部(4)で、筆者は何に対して「うんざりしてしまう」というのですか。

- A 発表が昔に比べて多いこと。
- B 価値のない研究ばかりあること。
- C 時間がかかりすぎること。
- D 情報の洪水の中にいること。

問5 下線部(5)が比喩的表現であることに注意し、筆者はどうすればそこに到達できると説明しているのか、正しい組み合わせを選びなさい。

- ① いつも渴きを味わえる状態にしておく。
- ② 意味のあるものと、つまらないものがあることを知る。
- ③ 意味のあるものに対して本当の好奇心を持つ。
- ④ くだらない間食をしない。
- ⑤ 情報化社会には、非常に物の量が多い。
- ⑥ 肝心なものか、くだらないものかを見きわめる。

A ②→⑥→④→①

B ①→④→③→⑥

C ⑤→②→⑥→③

D ⑤→③→④→①

問6 下線部(6)「むずかしい問題」は、次のどの内容をさしていますか。

- A 詰め込み教育になるおそれはあるが、一度は多すぎる知識を整理しなければならぬ。
- B 情報を熱心に詰め込みすぎて、得た知識をどう使ったらいいのかわからない。
- C 情報過多の状態を整理する必要があるが、多すぎてなかなかうまく整理できない。
- D 現代社会では多くの知識を必要とするが、その一方で詰め込み教育に対する批判がある。

問7 下線部(7)で、筆者は「教師の役目」は何だと言っていますか。

- A 極力情報を与えないようにすること。
- B 多くの情報の中から必要なものと、そうでないものを選ぶ能力を与えること。
- C 栄養のあるものを食べるように指導し、間食をしない知恵を教えること。
- D 知的好奇心の大切さを繰り返し説くこと。

問8 下線部(8)で、筆者が言いたいことはどれですか。

- A 野次馬も好奇心も、広い意味の好奇心なので結局似たようなものである。
- B 野次馬は、好奇心ではないが、物ごとに興味を持つ態度が似ているので混同されやすい。
- C 野次馬と好奇心は全然違うものであり、二つを区別して考えることは簡単である。
- D 一見すると同じだが、野次馬は他人に影響されて動き、好奇心のような徹底的な追求心がない。

問9 下線部(9)「学術論文が非常にたくさんになった」ことが「健康な知的好奇心の邪魔になる」ことについて、筆者の考えを要約したものはどれですか。

- A 学術論文の数が多くなるのは、研究そのものが多様化した結果である。複雑な研究を続けることは不健康になりやすく、とりわけ精神の健康の邪魔になる。
- B 学術論文が非常に多くなったのは、多くの人々が研究を始めたからであり、みんな同じことをやろうとするのでとても忙しくなり、健康な好奇心を保てない。
- C 学術論文が多くなったのは、多くの人々が同じことをやるからであり、それが情報過多をもたらすため、本質的な好奇心の妨げになっている。
- D 学術論文の数が多くなったのを見て、自分もやろうと考える人が増えてきたが、本当の好奇心を持つ人は、それを邪魔と感ぜないほど健康だ。

問10 文章全体の中で、筆者の考える「教育の中心的な問題」は何ですか。

- A 学生に知識の詰め込みをしないようにするにはどうすべきか。
- B 他人と同じことをするという態度を止めさせるにはどうしたらよいか。
- C 人間生来の好奇心を鈍らせないためにはどうしたらよいか。
- D 多すぎる情報の中から、学生に何を選んで与えるか。

日本語解答 (2006年 日本語・日本文化研修留学生用)

問 題		解 答											配 点
計30点	問1	れい	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	1点×10=10点
		B	D	A	A	B	C	B	D	C	B	B	
	問2	れい	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	1点×10=10点
		C	A	A	D	B	C	D	C	C	A	B	
	問3	れい	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	1点×10=10点
		A	D	B	B	C	B	D	B	C	C	A	

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	2点×9=18点
II-1 計18点	B	A	C	D	B	C	A	C	

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	2点×8=16点
II-2 計16点	B	D	D	C	D	B	A	

III 計16点	読み方	1	学 ぶ (ま な ぶ)	2	催 し (も よ お し)	1点×16=16点
		3	修 行 (し ゅ ぎ ょ う)	4	弟 子 (で し)	
		5	田 舎 (い な か)	6	架 かる (か かる)	
		7	打 つ (う つ)	8	成 功 (せ い こ う)	
		9	桜 (さ く ら)	10	季 節 (き せ つ)	
	漢 字	①	レキシ (歴 史)	②	ヒめて (秘 め て)	2文字の漢字の読み/書きについては、全て合っている場合にのみ1点を与える。
		③	ハシ (橋)	④	フトい (太 い)	
		⑤	オクル (送 る)	⑥	サく (咲 く)	

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	2点×10=20点
IV 計20点	B	D	B	D	C	A	B	D	C	

—取り扱い上の注意—

1. 試験時間は、120分。
2. 満点は100点。